

故 橋 口 所 長 を 偲 ぶ

村山 春二郎

私は昭和3年に、台湾で悪性マラリアにかかり、九死に一生を得て沖縄にたどり着いて、当時の県会議員仲本亀五郎氏（氏の明治大学在学中に知り合う）のお世話で県病院に入院、時の副院長石川氏の施療をうけてどうやら健康をとりもどし、また県庁に就職をすすめられて、今日まで沖縄に生を保って参りました。齢七十五才というところです。

50年前の着琉当時、南方系悪性豚コレラの防波堤とでも申しますか、沖縄県の豚コレラ防疫は農林省でも重要視され、国費の大部を以って沖縄県獣疫血清製造所を設立せられ、初代所長格に大橋正之助氏、副所長格に橋口渡氏が就任されました。御兩人共、立派な学識を持たれ、私どもは技術的御指導を受けましたので、感銘を少々書いてみたいと思います。

私が渡久地警察署管内の初代防疫獣医として赴任し、管内の防疫業務に従事していた頃、伊江村巡査駐在所の新里巡査から、山々原（現在、軍用地のあたり）と海岸に20羽位の野鳥の死体があり、また民家・字内にも前日夕刻まで元気だったアヒルやニワトリが、弱っていたり死んだりしていること、さらにこの民家・字内にも野鳥の死体があるという注意報告（当時、警察の報告はすべて注意報告となっていた）があったので、すぐに出張してみました。話は廻りますが、私は母校の助手時代に、東京の浜離宮（皇室の別荘みたようなもので、三田区浜松町の海岸にあった）で、カモがポックリ死ぬので、当時御用係の職を兼任しておられた教頭の中村道三郎先生の下命により現物を貰って帰って心血を検査し、家きんコレラと診断して農林省西ヶ原獣疫調査書に報告した体験があったことから、或いは・・・とって嚴重に消毒の上で剖検しましたが、変状が少々家きんコレラとは異なるようで、どうもおかしい。率直に申して、私には判断できず、7羽の剖検記事と死んだトリ5羽（アヒル3、野鳥2）を石油缶に密封して、那覇直行の船便で送りました。一方、村当局も積極的に協力せられまして、わざわざ村史員一人に出張命令を出され、那覇に到着したら血清所まで持って行くよう手配して下さいました。また、私は警察署に帰って、警察電話で連絡をとりました。その後10日程たって、橋口先生から、「面白い特殊な発見だできたそうだ。」という意味のお便りがありました。私も内心非常に喜んでいましたところ、約2ヶ月位たってから、出張で渡久地に見えた橋口先生は、「惜しいことをした。3ヶ月位早ければ、世界的に一番の発見だったが、米国の雑誌にウチ菌として有害猛毒な真菌の報告があった。それにちがいない。御苦勞を多謝するが、止むを得ない。」と非常に残念がった口調で話されました。

当時は、獣医師の現場業務は大変な重労働で、本を読む気力さえない時がよくありました。その上、信賞必罰の慣習は強く、随分緊張して働いたものでしたが、やがて第二次大戦突入に至り、意気ますます旺んになる、といった風潮の時代でした。そんな時期に、大橋所長が退官され、橋口先生が代わって所長となられました。先生は今次対戦で戦死されましたが、生きておられたら世界的な発見や発明をされ、社会的に大きな貢献をなされたにちがいありません。と申しますのは、次のようなことがあったからです。

私がマラリアで困ったとき、今の波の上通りに真喜屋さんと申される漢方医がおられ、そのお孫さんと親しくしていた関係で紹介をうけて、診療していただきました。当時八十才位にでもなっておられたんではないかと思われるこの老先生、非常にお話好きで、また博識な方でありました。台湾の事情をきかれ、また支那大陸の話、漢方医学の実際をご説明下さったりしま

した。その中で、支那では青カビをとって豚脂とねり合わせて傷につけると、凡ての化膿はよくなるのだが、どんな理論があるか判らない、というお話がありました。ある程度のヒントを得た積りで、私は、このことを橋口先生にお話ししましたところ、先生は非常によろこばれ、「良いことを聞かせてくれた。他にも研究資料を得ているから、必ず完成して見せる。お互い、さらに検討しよう。」と申されました。その後私は、名護署、県衛生課、嘉手納署と転勤転勤で、最後に今帰仁屠場検査員駐在となりました。その間約6ヶ年が経っていましたが、橋口先生は、「継代培養でもう一步だが、どうも戦況がよくないので当分様子を見ている。とにかく秘密にして貰いたい。」と申されていました。しかし、先生は戦死されました。何か記録でも残っておれば・・・と、先生の御頭脳を偲ぶとき、まことに残念でなりません。抗生物質の製造発明では世界的に第一任者であられたことを、私は信じております。

我が沖縄に多数おられる、30代、40代、50代の気鋭の人材—獣医師の先生方は、どうか、橋口先生につづいて、自己の才能に自信を持って大いに努力していただきたいと、お願いいたします。他方、政治・行政の中枢におられる方は、意義ある予算を組まれて、科学人の育成と、沖縄の立地条件を最大に生かした、世界的な生物科学研究のメッカたらしめるよう方向づけられることを、望んで止みません。（昭和50年11月26日。名護市字名護1457番地にて。）

IX 病性鑑定実施状況の推移

頭羽数

年	元号	乳用牛	牛	肉用牛	豚	馬	鶏	山羊	その他	計
1955	S30		2		255		33		1	291
1956	S31		20		122	1		3		146
1957	32		11		172	10	231			424
1958	33		9		107	1	71	3	1	192
1959	34		6		56	4	348	2		416
1960	35		3		34	2	26	4		69
1961	36		3		94	3	22			122
1962	37		7		61	4	10			82
1963	38		12		99	2	181	8	12	314
1964	39		2		186	2				190
1965	40		4		23	5	40	1		73
1966	41		38		400		22	5		465
1967	42		126		349		16	6	5	502
1968	43		38		260		38	3		339
1969	44		27		174		170		7	378
1970	45		133		66		4,313	4	3	4,519
1971	46		21		8		192	1	8	230
1972	47		52		18		31	1		102
1973	48		39		20		67			126
1974	49		27		28		1,099			1,154
1975	50		112		34		106		1	253
1976	51									0
1977	52									0
1978	53	3		61	146		88		7	305
1979	54	14		53	52		57		2	178
1980	55	15		118	88		41		1	263
1981	56	20		42	67		24		7	160
1982	57	48		47	103		10		1	209
1983	58	348		171	44		41		5	609
1984	59	1,153		109	490		5		14	1,771
1985	60	945		382	1,107		15		32	2,481
1986	61	465		89	865	1	40	4	37	1,501
1987	62	531		221	1,086	29	29	4	2	1,869
1988	63	193		318	511		147	101	1	1,170
1989	H 1	29		217	789	1	65	71	5	1,138
1990	2	84		314	901	4	46	1	80	1,526
1991	3	10		196	112		1,691	13	24	2,105
1992	4	57		615	135	0	106	26	18	936
1993	5	35		115	534	0	53	0	21	771
1994	6	37		1,708	53	0	42	3	50	1,916
1995	7	96		602	1,436	0	50	5	6	2,197
1996	8	373		448	1,569	4	14	2	15	2,436
1997	9	50		874	1,554	0	53	5	51	2,587
1998	10	339		858	1,272	4	60	9	35	2,577
1999	11	371		780	1,596	2	481	2	33	3,265
2000	12	44		863	2,530	0	75	335	48	3,895
2001	13	16		1,101	2,641		134	16	40	3,948

X 年報報告一覽

年度	番号	発表題目・発表者
1958	1	八重山地方に発生する馬のハプロネマ性結膜炎及び皮膚炎・・・浦崎賢功
	2	豚コレラにおける血液変化の診断的価値・・・浦崎賢功
	3	豚コレラクリスタルバイオレット予防液力価試験 豚における VIRUS の態度 ・・・浦崎賢功他
	4	宮古において分離された炭疽菌・・・町田宗純
	5	伊是名村における豚の流行性肺炎・・・上里宣治
	6	宮古地方に発生する馬流産の原因学的研究・・・浦崎賢功
1961	7	沖縄において製造する豚コレラクリスタルバイオレット不活化ワクチンの安全性及び 免疫原性・・・浦崎賢功
	8	子豚の溶血性貧血症・・・町田宗純
	9	沖縄における家兎化豚コレラウイルスの検討・・・上里宣治他
	10	豚トキソプラズマ症の疫学的調査成績・・・島袋 哲他
	11	最近発見された豚の呼吸器症状を主徴とする一病毒疾患・・・浦崎賢功他
	12	豚の化膿性疾患より <i>Corynebacterium pyogenes</i> の分離例・・・町田宗純他
1962	13	豚から分離された <i>Pasteurella</i> ・・・伊波寛侑
	14	家兎化豚コレラ予防液の野外試験・・・町田宗純
	15	牛のブルセラ病の血清学的調査・・・玉城幸信
	16	と畜場と畜豚扁桃より豚丹毒菌分離並びにその分離菌について生物学性状検査成績 ・・・伊波寛侑他
1963	17	と畜場臓器よりのトキソプラズマ原虫の分離及びと畜場従業員のトキソプラズマ抗体 調査・・・島袋 哲他
	18	犬及び牛を対象としたレプトスピラ抗体分布調査成績・・・本永博一
	19	魚類表面からの豚丹毒菌の分離及び分離当初の病原性・・・比嘉勇光他
	20	レプトスピラの一分離例・・・比嘉勇光他
	21	豚コレラの野外発生例・・・比嘉勇光他
	22	豚コレラ家兎ウイルスの病原性復帰試験・・・比嘉勇光他
1964	23	牛肝蛭症の疫学的調査成績・・・比嘉勇光
	24	と殺牛における肝蛭症の実態および肝機能との関係・・・比嘉勇光
	25	<i>Corynebacterium pyogenes</i> による可能疾患・・・玉城幸信他
	26	日本脳炎の血球凝集性反応による抗体調査・・・町田宗純他
	27	沖縄における鶏のロイコチトゾーン病・・・奥田高夫
	28	豚の内部寄生虫・・・町田宗純他
	29	ダラプリムによる T p の人工感染の治療・・・島袋 哲他
	30	家兎化豚コレラ予防液の製造基準の設定・・・当山晴朗
	31	繁殖障害調査成績・・・宮里松善他
1965	32	沖縄の牛プラズマ病に関する研究・・・屋富祖幸栄他
	33	BHC、Neguvon、Sumithion による牛寄生若ダニの殺虫試験・・・屋富祖幸栄他
	34	豚の繁殖障害 (その1)・・・奥間貞広他
	35	日本脳炎の H I 抗体、中和抗体の産生経過及び輸入ランドレースの中和抗体結果 ・・・外間善一郎他
	36	豚の白血病・・・奥田高夫他
	37	オビキンバエ属幼虫による新生犢の Myiasis・・・町田宗純他
	38	豚よりの <i>Br.suis</i> 分離例・・・奥田高夫他
	39	<i>Staphylococcus aureus</i> による鶏の集団へい死例・・・奥田高夫
	40	多頭飼育養豚場実態調査・・・高江洲義弼他
	41	トキソプラズマ症に由来するとおもわれる豚の癩癩様発作・・・奥田高夫

年度	番号	発表題目・発表者
1965	42	種牡畜の繁殖機能生体組織診断・・・宮里松善他
	43	乾燥豚丹毒予防液の改良に関する研究 Skin Scarification 法による効力試験 ・・・宇良宗輝他
1966	44	鶏から分離された P P L O (<i>Mycoplasma</i>)・・・町田宗純
	45	多数羽飼育養鶏場実態調査・・・吉武 進他
1967	46	と殺豚における日本脳炎 H I 抗体の季節消長・・・宇良宗輝他
	47	豚の日本脳炎の抗体保有状況調査・・・町田宗純他
	48	豚の伝染性胃腸炎に関する調査・・・外間善一郎
	49	材料豚の豚コレラ抗体調査・・・外間善一郎
	50	ピペラジン製剤「ヨートン」による豚回虫の駆除試験・・・吉武 進他
	51	豚の寄生虫の保虫状況調査・・・吉武 進他
	52	豚赤痢に関する研究 病原体の分離・・・町田宗純他
	53	豚赤痢に関する研究 Tylosin 及び Spiramycin による治療試験・・・町田宗純他
54	沖縄における鶏の伝染性呼吸器病の調査成績・・・町田宗純他	
55	コバブンギによると思われる山羊の中毒・・・又吉栄忠他	
1968	56	牛体寄生ダニの殺虫効果試験・・・濱川昌啓他
	57	牛の伝染性眼炎 <i>Moraxella bovis</i> による角膜結膜炎の集団発生例・・・仲田安雄他
	58	豚丹毒予防液の豚における力価試験・・・宮城良有他
	59	豚の繁殖障害・・・宮城良有他
	60	宮古平良池間島の豚より分離した豚丹毒菌の生物学的性状及び毒力検査 ・・・宮城良有他
	61	豚赤痢に関する研究・・・タイロシンによる野外における発生予防試験 ・・・町田宗純他
	62	と場材料による日本脳炎感染状況調査・・・富里真昭他
	63	人及びネズミから分離されたレプトスピラ・・・仲田安雄他
64	沖縄における豚の日本脳炎に関する研究 67年流行の終息期から68年の流行期におけると畜豚の H I 抗体陽性率の推移 ・・・宇良宗輝他	
65	牛の白筋症についてニュージーランドからの輸入牛における船内発生例 ・・・又吉栄忠他	
1969	66	1969年流行初期におけると殺豚の H I 抗体保有状況・・・宇良宗輝他
	67	石垣島における家畜の日本脳炎抗体調査成績・・・宇良宗輝他
	68	ピロプラズマ蛍光抗体の調整法・・・外間善一郎
	69	<i>vibrio coli</i> による赤血球凝集反応基礎的條件の検討・・・町田宗純他
	70	ニューカッスル病生ワクチンのプースター効果・・・宮城良有他
	71	強毒株攻撃に対する予防接種豚の態度・・・照屋幸三他
	72	豚丹毒予防液の豚における力価試験・・・宮城良有他
	73	市販豚肉からのトキソプラズマ原虫の分離・・・島袋 哲他
74	レプトスピラ病の抗体調査成績・・・仲田安雄他	
75	牛の寄生虫検査成績・・・新垣義雄他	
76	と畜場における S E P の調査成績・・・又吉栄忠他	
1970	77	1970年におけると殺豚の H I 抗体保有状況・・・宇良宗輝他
	78	乾燥豚丹毒予防液に関する研究 生菌発育凝集反応による抗体調査成績 ・・・照屋幸三他
	79	羽地村稲嶺で発生したニューカッスル病・・・奥田高夫他
	80	健康豚からの <i>Vibrio</i> 菌の検索成績・・・町田宗純他
	81	と畜場における豚の流行性肺炎 (S E P) の調査成績・・・又吉栄忠他
	82	豚のエペリスロゾーン病・・・濱川昌啓他

年度	番号	発表題目・発表者
1971	83	伊是名村で発生した牛流行熱様疾患の発生状況及びウイルス分離成績とその性状 ・・・外間善一郎他
	84	牛ピロプラズマ病の血清学的診断に関する研究 ゲル内沈降反応によるダニ体内の ピロプラズマ抗原の検索・・・外間善一郎他
	85	沖縄における鶏のニューカッスル病その後の発生とニューカッスル病ウイルスの動態 ・・・奥田高夫他
	86	牛の寄生虫検査成績・・・金城善宏
	87	ニューカッスル病生ワクチンの使用に関する研究・・・宮城良有他
	88	家兎化豚コレラ予防液検定豚の中和抗体価の経時的推移・・・照屋幸三他
	89	石川保健所管内4と畜場におけると殺豚のトキソプラズマ抗体保有状況 ・・・島袋 哲他
	90	沖縄における豚の日本脳炎に関する研究 1971年におけると殺豚のHI抗体保有状況・・・宇良宗輝他
	91	ヒトの疑似日本脳炎発生周辺における家畜の日本脳炎ウイルスに対する抗体保有状況 とウイルス分離・・・宇良宗輝他
	92	と畜場における豚の萎縮性鼻炎 (AR) 調査成績・・・又吉栄忠他
	93	豚丹毒予防液の保存期間における生菌数の変動・・・照屋幸三
	94	白血球における牛タイレリア原虫検出法の検討・・・濱川昌啓他
	95	沖縄地方の牛寄生ピロプラズマ・・・濱川昌啓他
	96	沖縄における牛寄生タイレリアの分布調査・・・濱川昌啓他
1972	97	家兎化豚コレラ予防液接種豚の抗体保有状況・・・照屋幸三他
	98	家兎化豚コレラ予防液の移行抗体・・・照屋幸三他
	99	県内における豚コレラ生ウイルス予防液の野外試験・・・照屋幸三他
	100	豚コレラ家兎化ウイルスの継代による家兎に対する病原性の変化・・・上里宣治他
	101	<i>Clostridium Perfringens</i> 創傷感染による悪性水腫様疾病の集団発生・・・町田宗純他
	102	みかけ上健康な豚の豚丹毒菌保有状況調査・・・本永博一他
	103	豚における <i>Bordetella bronchiseptica</i> 抗体調査成績・・・金城善宏他
	104	鶏ブドウ球菌症の一発生例・・・宮里マチ子他
	105	牛のピロプラズマ病血清学的診断法に関する研究 補体希釈法による診断法 ・・・外間善一郎他
	106	牛のピロプラズマ病血清学的診断法に関する研究 血清希釈法による診断法 ・・・外間善一郎他
107	豚のエペリスロゾーン病の病理組織学的変状・・・又吉栄忠他	
1975	108	牛寄生バベシアの種類と分布・・・濱川昌啓他
	109	牛バベシア病の種類と脳毛細血管よりの原虫検索・・・濱川昌啓他
	110	牛アナプラズマ病の調査経過・・・大仲良治他
	111	山羊及び牛アナプラズマ補体結合反応抗体の分布・・・濱川昌啓他
	112	牛アナプラズマ病の蛍光抗体法による診断・・・大仲良治他
	113	沖縄における牛体及び草地ダニの種類及び分布・・・大仲良治他
	114	牛の鼻鏡白斑症の治療試験・・・知花 健他
	115	豚のエペリスロゾーン病の人工感染試験・・・又吉栄忠他
	116	牛のアカバネウイルスを主とした抗体調査・・・外間善一郎他
	117	沖縄における牛の内部寄生虫の浸潤状況・・・知花 健他
	118	ニューカッスル病の不活化ワクチン接種後の免疫効果・・・上地正徳他
	119	鶏マイコプラズマ病の実態・・・奥田高夫他
	120	鶏伝染性呼吸器病の野外における実態調査・・・金城英企他
	121	コクシジウム野外感染ヒナに対する投与薬剤の効果・・・仲嶺マチ子他
	122	沖縄で肥育されたSPF豚の汚染度調査・・・松川俊一他

年度	番号	発表題目・発表者
1978	123	牛アナプラズマ病のCFマイクロ法による診断・・・大仲良治他
	124	石垣島由来オウシマダニの3薬剤に対する感受性・・・平安名盛巳他
	125	ステファノフィラリアの中間宿主・・・比嘉弘正他
	126	牛のステファノフィラリア症の治癒転機・・・知花 健他
	127	沖縄県下のステファノフィラリア症の分布・・・知花 健他
	128	実態顕微鏡による肝蛭卵検査 1. 集卵法・・・知花 健他
	129	実態顕微鏡による肝蛭卵検査 2. 検卵法・・・国場 保他
	130	牛乳頭種に関する研究 牛での人工感染試験・・・照屋幸三他
	131	県内における牛アデノウイルス7型パラインフルエンザ3型の抗体保有状況 ・・・照屋幸三他
	132	沖縄県の放牧地に多発する、いわゆる「牛の後軀障害（仮称牛の腰フラ病）」の原因 調査・・・又吉栄忠他
	133	初生豚に見られた <i>Aeromonas hydrophila</i> 様菌による感染と思われる一例 ・・・本永博一他
	134	豚の <i>Haemophilus parahaemolyticus</i> 感染症の発生例・・・金城英企他
	135	豚丹毒免疫賦与法の検討・・・松川俊一他
136	沖縄におけるニワトリのロイコチトゾーン症の発生・・・奥田高夫他	
137	野外におけるニワトリコクシジウム感染調査・・・仲嶺マチ子他	
138	伝染性気管支炎の血清学的診断手技に関する試験・・・上地正徳他	
139	うずらに発生した緑膿菌症・・・奥田高夫他	
1979	140	沖縄県内肉用牛および乳用牛血清におけるバベシア抗体調査およびアナプラズマ抗体 の検出・・・平安名盛巳他
	141	沖縄県の豚から分離したトキソプラズマ原虫の 2-sulfamoyl 1-4 ; diaminodiphenyl sulfone (SDDS) に対する感受性・・・島袋 哲他
	142	豚のエペリスルゾーン症の治療試験・・・又吉栄忠他
	143	<i>Salmonella typhisuis</i> 様菌の豚からの分離・・・金城英企他
	144	県内における牛ロタウイルス (NCDV) と牛コロナウイルスのHI抗体調査 ・・・国場 保他
	145	<i>Mycoplasma gallisepticum</i> の血清中抗体の消長について・・・奥田高夫他
	146	鶏集団飼育下における消毒効果・・・仲嶺マチ子他
	147	県内に発生した異常産・・・照屋幸三他
	148	県内における「おとり鶏」によるロイコチトゾーン症感染の追跡試験 ・・・花城康清他
	149	実態顕微鏡による肝蛭卵検査法と皮内反応の検討・・・知花 健他
150	牛の沖縄糸状虫症に対するパーペンダゾールの治療効果・・・知花 健他	
151	馬肉水を用いた豚丹毒菌用寒天培地についての検討・・・本永博一他	
152	いわゆる Oxidation-fermentation (OF) 試験用培地への添加物・・・本永博一他	
1980	153	オウシマダニに関する免疫学的研究 特に未吸血オウシマダニからのゲル内沈降抗原の分離・・・平安名盛巳
	154	蛍光抗体法に関する基礎試験. 牛γグロブリンおよびIgGの精製・・・平安名盛巳他
	155	アズントールの安定性に関する試験 特に実験室における安定性・・・上地正徳他
	156	牛乳頭種の実験小動物への感染試験・・・照屋幸三他
	157	と殺豚より分離したトキソプラズマ原虫 マウスに対し病原性の非常に弱い株の分 離例・・・島袋 哲他
	158	沖縄におけるロイコチトゾーン症の感染防除試験・・・花城康清他
	159	沖縄における牛のデルマトフィルス症の発生例・・・金城英企
160	豚の肝白斑症の病理学的検討・・・花城康清他	
161	全血保存が血清性状におよぼす影響・・・平安名盛巳	

年度	番号	発 表 題 目 ・ 発 表 者
1981 ～ 1982	162	ソテツ葉給与牛の血清性状の変動・・・天久勇市
	163	沖縄県下における牛の各種アルボウイルス感染症・・・国場 保他
	164	乳用牛に集団発生した牛RSウイルス感染症・・・国場 保他
	165	沖縄県内における犬バベシア病の血清学的検討・・・濱川昌啓他
	166	沖縄県で発生した豚の炭疽の経過・・・本永博一他
	167	牛のアクチノバチルス症の集団発生例・・・金城英企他
	168	<i>Toxoplasma gondii</i> の可溶部および粒子画分免疫マウスマクロファージによる in Vitro 抗トキソプラズマ作用・・・島袋 哲
1983	169	沖縄県糸状虫を媒介するウスイロバエ幼虫の駆除試験・・・知花 健他
	170	県内における過去3年間のニワトリヌカカの消長とロイコチゼン症の発生 ・・・花城康清他
	171	全血および血清保存が蛋白分画値におよぼす影響・・・平安名盛己
	172	血清保存が乳用牛の血清性状におよぼす影響・・・平安名盛己
	173	県内における牛異常産の発生・・・国場 保他
	174	牛乳頭腫の治療試験の一例・・・松川俊一
	175	放牧牛に集団発生したバベシア病・・・濱川昌啓
	176	<i>Streptococcus suis</i> による豚の連鎖球菌症・・・金城英企他
	177	牛のデルマトフィルス症の診断法・・・金城英企他
178	鶏の黒頭病（原虫性盲腸肝炎）の発生例・・・奥田高夫他	
1984	179	牛白血病抗体検査による乳用牛育成センターの牛白血病浄化維持・・・ 松川俊一他
	180	牛白血病抗体陽性牛及び子牛の経時観察・・・松川俊一他
	181	導入豚を中心としたオーエスキー病の抗体検査・・・国場 保他
	182	ホルマリンおよびアンモニアガスの殺ダニ効果・・・平安名盛己他
	183	流産を伴う豚トキソプラズマ病・・・濱川昌啓他
	184	肉用アヒルにおけるC型ボツリヌス症の集団発生・・・金城英企他
	185	毛体虫及び毛様線虫によると思われる鳩の内部寄生虫症・・・奥田高夫他
	186	犬の腸内容物からの薬物検出・・・天久勇市他
	187	豚の <i>H. parasuis</i> 感染症の発生例・・・金城英企他
1985	188	バベシア付活化ワクチンの免疫原性の検討・・・平安名盛己他
	189	ソテツ葉給与牛における病理学的検索・・・天久勇市他
	190	牛白血病抗体陽性例及びその子牛の経時的観察・・・松川俊一他
	191	Y R イヤータグを用いたウスイロバエ防除試験・・・平安名盛己他
	192	B A Y V n 6582 を用いたウスイロバエ防除試験・・・平安名盛己他
	193	B A Y 6045 のオウシマダニに対する駆除効果・・・平安名盛己他
	194	外用した B A Y 6045 が牛体に及ぼす影響・・・平安名盛己他
	195	県内で発生した牛のレプトスピラ症・・・本永博一他
	196	牛のレプトスピラ症の病理組織学的検討・・・千葉好夫他
	197	沖縄県内における I B R の発生例・・・国場 保他
	198	肥育豚における食塩中毒の集団発生・・・濱川昌啓他
	199	薬物槽液から検出された有機リン分解物・・・天久勇市他
1986	200	オウシマダニの薬物感受性試験・・・平安名盛己他
	201	B A Y V L 6045 のオウシマダニ駆除試験・・・平安名盛己他
	202	B A Y V L 6045 の野外応用試験・・・平安名盛己他
	203	沖縄県における牛の異常産の発生例・・・千葉好夫他
	204	牛のソテツ葉給与牛における出血素因の試験・・・天久勇市他
	205	不活化乳剤による牛バベシア病の発症防御効果・・・濱川昌啓他

年度	番号	発 表 題 目 ・ 発 表 者
1986	206	トキゾプラズマ死虫免疫マウスの感染防御におよぼすレバミゾールの免疫増強効果 ・・・渡久地政司
	207	豚の水頭症を伴った多発性腫瘍・・・千葉好夫
	208	兎のいわゆる「スナッフル」発生例・・・仲嶺マチ子
	209	牛の <i>Clostridium sordellii</i> 感染症の発生・・・仲嶺マチ子
1987	210	飽血幼・若オウシマダニ変態及び未吸血若・オウシマダニの生存性に及ぼす温・ 湿度の影響・・・平安名盛己他
	211	オウシマダニのゲル沈降反応用抗原の精製法及び2、3の性状の検討・・・ 平安名盛己他
	212	子牛型の白血病の発生事例・・・千葉好夫他
	213	カビ性肺炎を伴った伝染性腸肝炎の発生例・・・千葉好夫他
	214	沖縄における Chuzan ウイルス浸潤状況・・・国場 保他
	215	豚のサルモネラ症の発生・・・喜友名強他
	216	牛のデルマトフィルス症の臨床、病理、細菌学的検討・・・金城英企他
	217	県内でみられた豚の異常産・・・本永博一他
	218	自動血球計算器による血球算定条件の検討・・・大野 惇也他
	219	豚の血球形態に及ぼす血液塗抹標本作成法および血液保存条件の影響・・・ 大浜 勝也
1988	220	多良間島におけるオウシマダニの清浄化・・・平安名盛己他
	221	黒島由来オウシマダニの各種殺ダニ剤に対する感受性・・・平安名盛己他
	222	抗オウシマダニ抗体検出のためのラテックス凝集反応条件の検討・・・ 平安名盛己
	223	八重山における水牛の各種アルボウイルスに対する抗体保有状況・・・ 国場 保他
	224	食鶏処理場におけるブロイラーの病理学的検討・・・千葉好夫他
	225	県内の肥育牛に発生した <i>Haemophilus somnus</i> 感染症・・・喜友名 強他
	226	肉用子牛に発生した大腸菌性敗血症の一例・・・貝賀眞俊
1989	227	血液塗抹標本作成条件に関する2、3の検討(牛)・・・安里佐知子他
	228	種々の保存条件が乳用牛血液の一般検査値におよぼす影響・・・安里佐知子他
	229	沖縄県内に分布するマダニ類・・・平安名盛己他
	230	ダニ駆除阻害存在したにおけるフルメトリン製剤のダニ駆除効果・・・ 平安名盛己他
	231	<i>Mycoplasma hyosinoviae</i> 代謝阻止試験・・・貝賀眞俊
	232	アイノウイルスが関与していると思われる牛の異常産・・・国場 保他
	233	初夏に発生した牛流行熱・・・高吉克典他
	234	肉用牛の <i>Clostridium perfringens</i> A型菌によるエンテロトキセミア・・・ 又吉正直他
	235	与那国島でみられた馬の急死例・・・慶留間智厚他
1990	236	フルメトリン1パーセント含有殺虫剤のヌカカに対する防除効果・・・平安名盛己他
	237	オウシマダニに対するフルメトリン効力試験・・・平安名盛己
	238	バベシアボビス感染牛の血清生化学的検討・・・安里佐知子他
	239	波照間島における山羊のオウシマダニ <i>Boophilus microplus</i> 寄生状況・・・ 平安名盛己他
	240	古浜島で発生した牛のバベシア病・・・慶留間智厚他
	241	ヘイレージが関与したと思われる牛の銅欠乏症・・・安里佐知子他
	242	1989年に分離されたブルータングウイルス(BTF)発生時の黒島での疫学調査 ・・・高吉克典他

年度	番号	発 表 題 目 ・ 発 表 者
1990	243	県内で分離されたブルータングウイルス (BTV) を用いた血清疫学調査・・・高吉克典他
	244	牛流行熱 (BEF) 発生時の黒島での疫学調査・・・高吉克典他
	245	代謝阻止試験および菌体蛋白質の電気泳動法による関節炎および肺炎由来 <i>Mycoplasma hyosinnoviae</i> 株の比較・・・貝賀眞俊他
	246	子豚下痢由来大腸菌の毒素原性および剤受性調査・・・又吉正直他
	247	<i>Staphylococcus aureus</i> によるベンガルヤマネコの敗血症例・・・又吉正直他
	248	八重山地域で発生したマイコプラズマが関与したと思われる子牛の肺炎・・・貝賀眞俊他
1991	249	沖縄県におけるヌカカ属の種類と分布・・・平安名盛己他
	250	種雄牛の血清生化学的検査値・・・安里佐知子他
	251	県外導入鹿に発生したヨーネ病の病理学的所見・・・慶留間智厚他
	252	1991年に分離されたニューカッスル病ウイルスの性状・・・新城圭子他
	253	バイカジカに発生したヨーネ病・・・貝賀眞俊他
	254	山羊に発生したマイコプラズマによる胸膜肺炎および多発性関節炎・・・貝賀眞俊他
255	<i>Pasteurella dagmatis</i> が分離されたイリオモテヤマネコの寄生虫性気管支肺炎の一症例・・・又吉正直他	
256	子豚下痢由来大腸菌の薬剤感受性検査・・・又吉正直他	
1992	257	イリオモテヤマネコ (<i>Felis iriomotensis</i>) の寄生虫性気管支肺炎・・・天久勇市他
	258	山羊に発生したマイコプラズマ感染症の病理組織学的観察・・・慶留間智厚他
	259	肥育牛にみられたビタミンAおよびE欠乏・・・安里佐知子他
	260	牛ヘルペスウイルス1型、牛RSウイルスおよび牛伝染性下痢・粘膜病ウイルスの血清疫学調査・・・高吉克典他
	261	豚レプトスピラ病不活化ワクチンの検討・・・貝賀眞俊他
1993	262	山羊から分離されたマイコプラズマに関する細菌学的検索・・・貝賀眞俊他
	263	山羊に発生した <i>Pasteurella hemolytica</i> 血清型2感染症の一例・・・又吉正直他
	264	八重山列島における牛のアルボウイルスに関する抗体調査成績・・・新城圭子他
	265	オラウータンにみられたヘルペスウイルス感染症の病理組織学的観察・・・慶留間智厚他
	266	DNAプローブを用いた毒素原性大腸菌のエンテロトキシン遺伝子の迅速検出法・・・又吉正直他
	267	酸素抗体法 (SAB) によるレプトスピラの検査・・・慶留間智厚他
268	烏骨鶏由来ひな白痢菌の性状・・・又吉正直他	
1994	269	豚の生殖器・呼吸器症候群 (PRRS) の血清疫学調査・・・高吉克典他
	270	毒素原性大腸菌 (ETEC) の薬剤耐性解析とプラスミドプロファイルの応用・・・又吉正直他
	271	アカシカの急死例における血液生化学的検査・・・安里佐知子他
	272	牛の銅欠乏症発生事例・・・安里左千子他
	273	オウシマダニ駆除に伴う牛アナプラズマ病抗体保有状況の推移・・・座喜味聡他
	274	豚丹毒菌ヒアルロニダーゼ欠損株の病原性・・・安里 仁他
275	赤鹿の肝臓のヘモジデリン沈着症・・・上地俊秀	

年度	番号	発表題目・発表者
1995	276	Vero 毒素産生性大腸菌 (VTEC) 病原因子解析と薬物感受性およびプラスミドプロファイル・・・又吉正直他
	277	石垣で異常産牛から分離されたオルビウイルス・・・仲村圭子他
	278	乳酸菌性菌剤による子牛下痢の予防試験・・・又吉正直他
	279	酸素抗体法による豚レプトスピラ症組織内における菌抗原分布の検討・・・安里 仁
	280	<i>Pasteurella haemolytica</i> が分離された多発性壊死を伴った線推索性肺炎の1症例・・・安里 仁
1996	281	牛・豚由来 Vero 毒素産生性大腸菌 (VTEC) の抗菌薬感受性試験・・・又吉正直他
	282	Vero 毒素産生性大腸菌 (VTEC) が分離された豚の大腸菌性腸管毒血症の病理学的所見・・・安里 仁
1997	283	子牛由来の Vero 毒素産生性大腸菌 (VTEC) 細菌学的性状とプラスミドプロファイル・・・又吉正直他
	284	1992～1998年に分離された <i>Salmonella</i> の血清型, 薬剤感受性およびプラスミドプロファイル・・・又吉正直他
	285	沖縄県における豚流行性下痢 (PED) の抗体調査
	286	採卵鶏に発生した卵巣の顆粒膜細胞腫の病理学的所見・・・安里 仁他
1998	287	オウシマダニ撲滅によるピロプラズマビョウの推移・・・天久勇市他
	288	エンドファイト感染輸入乾草草給与牛に発生したライグラススタッガーが疑われた症例・・・仲嶺マチ子他
	289	複数病原体が関与した子豚肺炎の免疫組織化学的検索・・・安里 仁他
	290	1992年～1998年に分離された鶏および鶏舎環境由来 <i>Salmonella</i> の細菌学的性状とプラスミドプロファイル・・・又吉正直他
1999	291	子豚慢性呼吸器疾病の免疫組織化学的検討・・・安里 仁他
	292	沖縄県内における牛アルボウイルスの分離および疫学調査・・・国場 保他
	293	RT-PCR法を用いたアカバネウイルス ScDNA の制限酵素切断における株間の違い・・・仲村圭子他
	294	県内における牛異常産の発生と衛生対策・・・金城善宏
	295	アカバネウイルスが関与した異常産子牛の病理学的検索・・・安里 仁他
	296	自給ロールベール乾草給与牛にみられた銅欠乏症・・・仲嶺マチ子他
	297	牛異常産関連アルボウイルスの動態・・・仲村圭子他
2000	298	豚サーコウイルス2型感染症の病理学的検討・・・安里 仁他
	299	八重山における黒毛和種繁殖農場の牛の血清銅濃度・・・仲嶺マチ子他
	300	離乳後多臓器性発育不良症候群の病理学的検討・・・安里 仁他
	301	繁殖候補豚にみられた増殖性出血性腸炎の病理学的所見・・・安里 仁他
	302	猫にみられた血管炎をともなった壊死性腎炎、肝臓の線維索性皮膜炎・・・安里 仁他
	303	子豚にみられた非化膿性間質性腎炎・・・安里 仁他
	304	豚の大腸菌性腸管毒血症 (浮腫病) の細菌学的性状、病原遺伝子の保有状況と薬剤耐性・・・大城 聡他
	305	離乳後多臓器性発育不良症候群の免疫組織化学的検討・・・安里 仁他
2001	306	黒毛和種牛にみられた鉛中毒・・・仲嶺マチ子他
	307	沖縄県における乳用牛ヨーネ病摘発状況・・・大城 聡他
	308	下痢原因菌カンピロバクターの家畜からの分離と薬剤感受性・・・大城 聡他
	309	本県における「豚コレラ撲滅体制確立対策事業」の成績・・・片桐慶人他
	310	繁殖豚にみられた増殖性出血性腸炎・・・安里 仁他
	311	豚に認められた非化膿性間質性腎炎・・・安里 仁他
	312	豚に認められた非化膿性間質性腎炎・・・安里 仁他